

塾 maga 読者の皆様、こんにちは。谷めぐみです。

去る8月18日、第5回教養講座『スペインの音楽』が終了しました。あらためてスペインという国の歴史をひも解き、時代の心を探り、その中から生まれた音楽を聴いて、見て、味わう講座です。全12回のうち8回を私が担当。クラシック音楽を軸に、古代、中世から現代まで、約二千年の時を駆け抜けました。第3回は『ビウエラ七人衆』の著者、西川和子先生が謎の楽器ビウエラとその時代に鋭く迫り、第9～11回はスペインの軽音楽、ジャズフラメンコについて、塾頭、碓順治先生が熱くご講義くださいました。スペイン語の学び舎でスペインの音楽を識る！まさに日西翻訳通訳研究塾ならではのユニークかつ貴重な講座でした。各回の内容の一部を拙ブログにアップしてあります。どうぞご訪問ください。

<http://megumitani.exblog.jp/22307008/>

「スペイン歌曲って何ですか？」

コンサートのご案内をすると、よく尋ねられます。スペインの歌ですがフラメンコのコンサートではありません。ジャンルはクラシックですが、いわゆる肩の凝るガチガチの歌曲ではありません。ガチガチどころか、どこか懐かしいメロディーやリズムに誘われ、いつのまにか心が自由に柔らかくなります。「スペインっていいなあ！」素直にそんな気持ちが湧きあがります。これは歌曲についてのみ言えることではありません。スペインの音楽すべてに共通する「得も言われぬ魅力」が、演奏する者にも聴く者にも、かけがえのない命の喜びを与えてくれるのです。知られているようで、実はあまり知られていないスペイン音楽の世界。少しでも多くの方が興味を持ち、その妙味を楽しんでくださるよう願っています。

最後に…。奇しくもというべきか、開講中に、パコ・デ・ルシアの急逝、ホアン・カルロス1世の退位と、二つも大きな出来事がありました。驚き、哀感とともに、これも忘れられない記憶です。